



さい帯血バンクNow

第14号

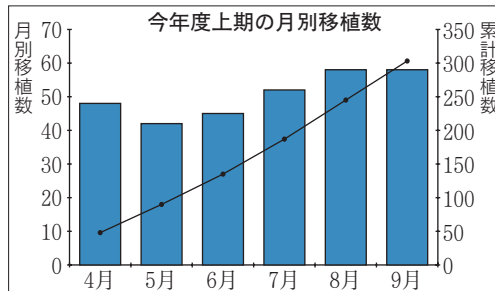
http://www.j-cord.gr.jp/

今年度上半期の移植数が303例に 昨年度の1年分を上回る

さい帯血バンクを介したわが国におけるさい帯血移植は、今年度に入って飛躍的な伸び率で急増しています。その増加のペースは、今年度は上半期だけで、昨年度の1年分の実績を上回る移植数を記録しました。今後もこの傾向はさらに続くと思われる、さい帯血移植の社会的ニーズはより増大しています。日本さい帯血バンクネットワークをはじめ、各さい帯血バンクのスタッフは、この需要に応えるため、引き続き努力して参ります。

来年中にも累積2000例突破へ

日本さい帯血バンクネットワークに参加するさい帯血バンクが提供したさい帯血を用いた非血縁者間のさい帯血移植は、昨年度(2002年4月～2003年3月)は294例が実施されましたが、今年度上半期(2003年4月～9月)だけで303例が行われ、すでに昨年度の1年間の移植数を上回る結果となりました。



るものと見られています。日本でのさい帯血移植は、今年6月には7年あまりをかけて累積で1000例を突破したところですが、このままのペースで進展すると、来年中にも累積では2000例に到達しそうな勢いでの急展開も予想されます。

■ 月間60例に迫る

今年度の月間移植数を見ても、4月が48例、5月は42例、6月45例、7月になると52例、8月は58例、9月は58例とその実施数は少し

ずつ増える傾向が見られています。上半期の平均は月平均50例ですが、下半期はそれ以上の移植が行われるものと見られています。

■ 年間600例超す?

単純計算でも、今年度は年間600症例以上のさい帯血移植が実施され

■ 背景に指針改訂

これだけの急増の背景には、昨春に「技術指針」が改訂されて、これまでにあった「骨髄バンクにドナーがない患者さん」という条件がはずれたことが医療界に理解されてきたことが反映しているかも知れません。また「さい帯血移植は小児患者の治療法」というイメージも今では払拭され、成人にも積極的に実施されるようになってきました。特に高齢の患者さんには、骨髄の非破壊的な前処置による「ミニ移植」も広範囲に行われるようになり、最高齢では79歳の患者さんにもさい帯血移植が行われています。

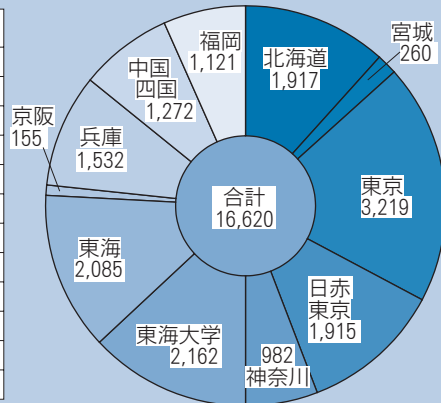
■ 調整不要も要因

さらに、骨髄バンクのドナーのように長期間を要するコーディネートの必要がないことも、さい帯血移植が大きく増えていることの大きな要因といえるでしょう。

● 各バンクの移植(供給)数

バンク名	～02年度	03年度	合計
北海道	168(171)	57(65)	225(236)
宮城	1(1)	3(3)	4(4)
東京	161(165)	53(58)	214(223)
日赤東京	62(66)	68(78)	130(144)
神奈川	66(68)	12(12)	78(80)
東海大学	114(127)	68(81)	182(208)
東海	140(142)	33(36)	173(178)
京阪	-()	1(1)	1(1)
兵庫	135(144)	58(57)	193(201)
中国四国	24(25)	11(13)	35(38)
福岡	25(28)	7(8)	32(36)
合計	896(937)	371(412)	1267(1349)

● 保存さい帯血の公開数



【注】①表とグラフのデータは、2003年10月末現在。

②表の数字はカッコ外が移植数、カッコ内が供給数。

③移植数は使用数であり、複数さい帯血同時移植(2本のさい帯血を同時に移植)が6例行われているため、累計実移植実施数は1261例。

複数さい帯血同時移植は、02年度3月、03年度4月、5月、7月、10月に実施。

同時検索システムの導入と 「患者相談窓口」共同設置も

骨髄バンク・さい帯血バンク共同事業協議会が提案

骨髄バンクとさい帯血バンクは、どちらも同じ患者さんたちを対象にしているため、お互いに連携をとってよりよい造血細胞移植療法を推進することが課題となっていました。このため、両バンクから委員を出して、この春より「骨髄バンク・さい帯血バンク共同事

業協議会」（議長・陽田秀夫日本さい帯血バンクネットワーク監事）が設置され、9月までに6回の会議を重ねてきましたが、このほどその報告がまとまり、両バンクに答申が行われました。

報告書によると、まず「患者・医療者側からみた迅速化・効率化などのサービスの向上」について、骨髄バンクのドナー検索とさい帯血の検索が別々に行わなければならない現状を改善し、同時に検索できる共同システムの導入を提案しています。

国庫補助が不可欠

また、両バンクが共同で「患者相談窓口の設置」を行うことも提言しています。こうした事業を行うには、予算措置が必要となるため、両バンクは国庫補助の要望を行うことが必要であるとしています。

国際協力にも言及

また、骨髄バンクに対しては「コー

ディネート期間の短縮」を検討するよう促し、さい帯血バンクには「国際協力に関して早急な方針決定」に言及しています。

さらに「移植成績の公開（情報提供）、ガイドライン作成について」として「非血縁者の骨髄、さい帯血を用いた移植適応に関するガイドライン」作成を行うことを提言しています。このため、さい帯血バンクでは移植成績を収集・解析できる体制整備を行う必要があります。

「廃棄」に注意喚起

その他、骨髄移植実施時において、移植病院がバックアップ用にさい帯血の提供を受け、結果的に使用されずに「廃棄」となる事例が生じていることが報告されました。これを防

止するため、骨髄バンクとさい帯血バンク双方から移植医療機関に対し、注意喚起文を送付することになり、日本さい帯血バンクネットワークではすでに、これを移植登録病院あてに発出しました。

引き続き協議機関

なお、報告書では「共同事業の実現のためには、今後も双方の事務レベルでの打ち合わせが必須となることから、各バンクからの委員と両バンクの事務局を含む協議機関の設置を要望する」としています。

この報告書は、骨髄移植推進財団の理事会と日本さい帯血バンクネットワークの総会に諮られ、承認されることにより実施に移されることとなります。

報告書をまとめ両バンクに答申



すこやかに、幸せに。

明日への夢、描きたい。

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療機器を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。

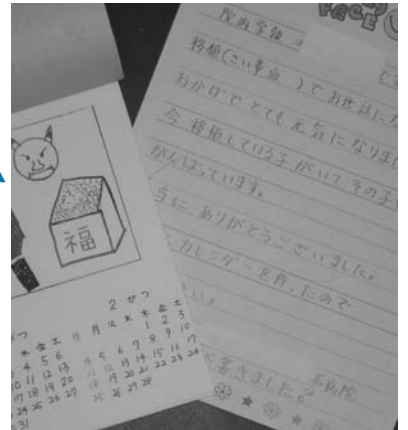


ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号

さい帯血バンクを介したさい帯血移植を受けた患者さんたちから、さい帯血バンクに感謝のお手紙などをいただいています。その一つをご紹介します（原文のまま）。なお、写真は元気になった移植患児からさい帯血バンクに届いた手紙と、院内学級で作った手づくりのカレンダーです。

家族からの手紙と患者手づくりカレンダー

患者さんは合併疾患をお持ちでしたので、さい帯血を申し込み後、移植まで半年かかりました。その間に体重が増え、移植時（11歳）にはさい帯血の細胞数が 2×10^7 /kg未満になっていました。春に移植を受けられてから年末にもまだ入院中とのことで、移植後の合併症管理の大変さが推察されました。



担当の先生から「ドナーさんにお手紙が出せるでしょうか」というお尋ねを頂きました。通常はさい帯血提供後1年以降に連絡を取らないことになっていること、赤ちゃんが産まれてから引っ越しされるご家族もあり1年過ぎると連絡がとれない場合もあることをまずお伝えしました。さらに、もし公表してもよろしければお手紙をホームページに載せたい旨をお願いしたところ、担当の先生経由でお手紙を頂きました。この夏、移植後3年目、お元気でいらっしゃるようです。（日赤東京・高梨美乃子）

貴重な体験に家族の絆も強く

前略

はじめまして、私たちは6歳の男の子を持つ夫婦です。

2歳7カ月の時、急性リンパ性白血病と診断されました。にがい薬も増え、つらい治療も始まり、約1年間化学療法にて治療をし、1年3カ月目に退院の日を迎えました。

その後通院治療を終え、昨年の春からは、幼稚園へ行く予定だったので準備も進めていたのですが、耳の下にしこりを見つけ、検査の結果残念ながら再発してしまいました。

元気に遊んでいる子供の姿を見るたびに、涙が止まりませんでした。家族の中には白血球の型（HLA）が適合する人がいなかったため、骨髄バンクに登録しましたが、そこでも合う人が見つからず、同時に臍帯血バンクの方も話を進めてもらったところ、全部が一致はしませんでした。移植にふさわしいという人が見つかり、再入院から5カ月後移植を行いました。

無菌室の生活では食事を一切口にせず、毎日ひどい下痢と高熱が続き、薬を飲む為になかなか水を飲むだけで、体力もだんだんなくなり、ビニールカーテンで閉ざされていて精神的にもかなりのストレスが続きました。

1日が過ぎるのをひたすら待つ毎日が1カ月続きました。ゆっくりではありましたが、白血球も増え始め、生着が認められ、無菌室から個室へ移り、ひどい拒絶もおこらず、あ

と少しで退院だと思っていたところ、今度は血便が何日も続き、腹痛もあり、息も時々苦しくなったりと、また心配な日々が続きました。5カ月目にようやく下痢がおさまり、少しずつご飯を食べられるようになり、無事退院の日を迎えました。

現在は春からピカピカの小学1年生で、入学式も終え、毎日楽しんで学校に通えるまでになりました。

ここまで来るのに本当に長かったですが、臍帯血を提供して下さった方に本当ならお会いして、あなた方のお陰で子供が元気になれたところを見てほしい気持ちで一杯ですが、それは出来ませんのでこの場を借りて御礼を言わせて頂きます。

子供の命を助けて下さって本当に有難うございました。

病気を通してとても貴重な体験をさせてもらい、家族の絆も強くなり、他にも病気を持つ親の気持ちが痛いほど分かる様になりました。励まし合ういい仲間も出来ました。これからは人を思いやる気持ちを忘れずのびのびと成長してほしいと思います。

また、病院の先生方、看護婦さん、みなさんのお陰で、元気になる事が出来て、本当に感謝しています。

生まれ変わった命を大切にします。

有り難うございました。

下痢と高熱が続いた無菌室生活

さい帯血移植後に晴れて新入学

できれば会ってお礼を言いたい

あんな委員会 こんな部会③ 事業評価委員会



委員長・正岡 徹

日本さい帯血バンクネットワークには事業運営委員会と事業評価委員会の2つの委員会があります。実行

部隊と評論家のような関係ですが、一般の評論家と違うところは不十分な点、不適切な点を指摘するだけではなく、うまく改善されるように持っていくことが必要な点です。現地調査と主として外部委託による経営改善についての調査があります。

現地調査では毎年各バンクに2

名の委員を派遣して実態調査をしています。

平成14年度は11カ所の現地調査を行いました。その結果、凍結公開のさい帯血本数は順調にのびてきているものの、専従の職員が少なく、兼務が多く、占有面積の区分も不明確で経理が十分に独立されていないこと、組織の形態もまちまちで経営状態も窮屈で職員の熱意によってかろうじて運営されていること、とくに大学病院内のバンクにこの傾向が強いことなどがみとめられました。

また保存細胞数、データ保存、帳票類、事業進行のチェックリストなどが異なり、これらを統一し

た共通のソフト作成が必要だと思われました。

現地調査に関しては、昼食代は委員の自弁、親しい友達がいる場合でもその後の麻雀や碁も禁止で、私としては少し寂しい気もしていますが、誤解をさけるためにはきちりしておいたほうがよいと考えています。

さい帯血バンクが順調にすすんでいることは嬉しいことですが、将来の細胞治療全体がどのように進んでいくべきか、その中でさい帯血バンクが担う役割はどんなものか、骨髄バンクとの関係など、将来構想があって考えねばならぬこともあります。現状の反省から将来はこのように変わらねばならぬという、将来構想の確立にも評価委員会の果たすべき役割があると考えています。

「善意にどう応えるか」が課題

「なぜ、どこの産院でもさい帯血の提供ができないのですか」

さい帯血バンク発足時からよくいただく質問です。これに対して私たちは、さい帯血採取には、厳密な基準があるため、スタッフの訓練と産科病院との契約が必要で、移植を受ける患者さんの安全を確保して、精度管理を行うためには、あらかじめ決められた病院でしか提供できないのです、と回答しています。

現在、さい帯血バンクの採取施設は全国で88病院です。どうしてもさい帯血を提供したいという場合は、現在通院している産科から採取施設に転院してもらうしか方法はありませんが、これは妊婦さんにとって、あまりにも大きな負担となってしまいます。現状としては、さい帯血提供という国民の善意にすべて応えられない状況にあります。

最近「さい帯血バンクの話聞かせてほしい」と、地方都市に招かれて講演する機会が何回かありました。その際に必ず出る話題に「当地でも

さい帯血バンクを発足して協力したい」というものがあります。

私は「さい帯血バンクを始めるには、設備投資など大きな資金が必要で、またわが国の保存計画としては、現状で十分なさい帯血を確保できる状況です」とお話ししています。経営効率などを考えると、たくさんの施設をかかえて事業を行うことは、どうしてもコストアップにつながってしまいます。

先日は、ある地方都市で「それなら、さい帯血の採取から搬送まで、費用負担をこちらですれば、そのさい帯血を受け入れてもらえますか」という提案までされました。

一方で、提供したいという善意を無にしないためには、全国どこでも県庁所在地に一つぐらいは採取施設を置くべきである、という意見もあります。

今後、こうした国民の善意にどう応えるかが、さい帯血バンク関係者にとっての課題となりそうです。

(事業運営委員長・野村正満)

医師説明会を実施

12月20日、横浜の学会で

日本さい帯血バンクネットワークでは、日本造血細胞移植学会のご協力を得て、移植医療機関の医師に対してさい帯血移植の実施に関する説明会を実施します。

今年の造血細胞移植学会は12月19日(金)からパシフィコ横浜で開催されますが、その一環として、20日(土)正午からのランチオンセミナーで「技術指針の改訂にともなう説明会」を行います。昨年春に改訂した技術指針により、さい帯血移植をめぐる情勢も大きく変化しています。移植の適応やその他「さい帯血の解凍」に関する手技なども含めての説明会です。みなさまの参加をお待ちしております。

ご寄付をいただきました

温かいお心ありがとうございます。
良知龍平様(佐賀県) 10万円
善意をお待ちしています
＜寄付受け付け専用口座＞
郵便振替口座番号：00180-9-57390
口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク